

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
平成28年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム  
「エビデンスに基づくスクールソーシャルワーク事業モデルの社会実装」

採択年度 平成26年度

実装責任者氏名 山野 則子 (大阪府立大学  
人間社会システム科学研究科、教授)

## 1. 要約

### I 効果的モデル構築

実施マニュアル・評価マニュアルの活用を27年度に続き、各地域で実践するとともに、拠点地域およびそれ以外の地域での新規活用導入や定着の取り組みをはかるために、大阪府立大学の研究者および拠点地域の実践家のメンバーが当該地域に向いてワークショップ形式の研修会などを開催した。

全体では、

- ① ファシリテータのうち中核的なメンバー（コアメンバー）と大阪府立大学の研究者が協働して、拠点地域およびそれ以外の地域を訪問してプログラム活用を支援するとともに、ファシリテータの養成を兼ねてコアメンバーが参画する会議を定期的で開催し、研究の進め方に関する意思決定、調査結果の分析・解釈を行った。
- ② 各地域でマニュアル活用を一層推進するため、意思決定の主体となる自治体の教育委員会向けにファシリテータの手引きを編集・作成した。
- ③ Webシステムの改善を行った。また、契約手続きが円滑に行われるように、導入自治体に対する助言を大阪府立大学の研究者が行った。
- ④ 各自治体が理解しやすいように、効果モデルの内容と流れを掲載したリーフレットを作成した。
- ⑤ 自治体がお互いに情報交換し取り入れやすくなるように効果的なモデルの社会実装に関する自治体成果報告会を行った。特に、新規にマニュアルを導入した地域の参加を重点的に呼びかけ、参加がしやすいように、また自治体の意思決定の鍵を握る関係者の同行がしやすいように、関西と関東で1回ずつ開催するなどの便宜をはかった。
- ⑥ エビデンスに基づく実践をベースラインとして進めている先進地（アメリカ）から助言をもらい、先進的な知見の発信のため、外書の和訳を平成27年度に引き続き行い、監訳段階まで推し進めた。
- ⑦ 日本社会福祉士養成校協会のSSW養成講座に、開発したマニュアル活用のワークショップ方式の研修を平成27年度に引き続き提供した。また、同協会の後援により、ワークショップ形式の研修会と活用の成果報告会を主催した。
- ⑧ 平成27年度に続き法務省矯正局から依頼を受けて、効果モデルの構築と社会実装の助言を行った。

### II 切れ目のない支援システムの構築

- ① 平成27年度に引き続き、子どもの貧困、生活困窮、子ども若者の課題、児童虐待、孤立など子育て支援、健全育成的課題などの支援的視点からの報告、検討を行った。
- ② その成果および自治体の取り組み状況を学会等で報告した。文部科学省中央教育審議会や部会、内閣府子どもの貧困検討会議などにおいて、本研究報告を行い、支援システム案を提案し、国の政策作りに貢献した。

- ③ 府や市においてモデルづくりの相談を複数件受け、助言した。
- ④ 子どもの貧困に関する施策づくりのために実態調査を大阪府、大阪市、府内12自治体から委託を受け、切れ目のない支援システムの構築の提言を行った。
- ⑤ 箕面市から委託を受けて、子どもの支援システムモデルづくりを行った。
- ⑥ 新聞・TVなどで実装したSSWモデル、切れ目のない子どもの支援システムが取り上げられ、複数回出演した。

## 2. 実装活動の具体的内容

### I 効果的モデル構築

平成25年度に作成した冊子版の『効果的なスクールソーシャルワーカー配置プログラム実施（改訂版）マニュアル・評価マニュアル～全国調査、試行調査の実証、実践家の議論を経て～』（以下、「マニュアル」とする）を、平成26年度、ウェブ版マニュアルとして活用するため、委託によるウェブ構築を行った。平成27年度はこの活用のためのファシリテーションを各地において推進するため、ファシリテーションの構造化を行ってファシリテーションの手引きにまとめ、これを用いたファシリテータ養成講座を開催してファシリテータを養成し、34名が修了した。これに続く平成28年度の実績は、以下の通りである。

- ① 養成されたファシリテータが自分の地域でマニュアル活用を推し進めるためのワークショップ式研修会の開催支援（主催する自治体との交渉を支援したり講師を務めたりする）を大阪府立大学の研究者と拠点地域に配置された中核的なファシリテータ（コアメンバーと呼称する）が協働して、開催地を訪問して行った。この体制を推進するために、コアメンバーが参画する会議を定期的に行って研究の進め方への意見聴取、調査結果の分析・解釈を行った。
- ② スクールソーシャルワーカー向けのワークショップ形式の研修会だけでなく、導入の意思決定に鍵を握る自治体のSSW事業担当者向けのワークショップ式研修を考案してファシリテーションの手引きにまとめ、拠点地域と連携しながら研修会を開催した。具体的には、12月17日に大阪府立大学にて研究者4名とモデル自治体に所属するファシリテータ（コアメンバー）1名による企画会議（効果的なSSW事業プログラムのあり方検討会）を開催し、研修会の企画を行い、手引きにまとめた。これを12月18日のコアメンバーが集まるにおいて提案し、実際にシミュレーションを行いながら手引きを完成させた。
- ③ Webシステムの改善を行った。システム開発業者が参加する12月18日の企画会議（効果的なSSW事業プログラムのあり方検討会）に向けて拠点地域のファシリテータ（コアメンバー）からシステムに対する意見を募り、大阪府立大学の研究班がシステム開発業者と調整した結果を企画会議において提示し、全体の調整をはかるとともに不具合を解消してより利便性の高い仕様に変更した。また、自治体と強者の契約手続きが円滑に行われるように、導入自治体

- に対する手続きの説明や書式の整理等を大阪府立大学の研究班から行った。
- ④ プログラム導入の検討にあたって各自治体が効果モデルとWeb版の特長や仕様を理解しやすいように、効果モデルの内容と流れ、Webシステム仕様の実際とを掲載したリーフレットを新規に作成した。デザインには写真や図解を多用し、観音開きにして見やすさに配慮し、具体的でわかりやすいものにした。
  - ⑤ マニュアル活用が始まった地域に対しては定着をはかるために、また、導入を検討する地域に対しては効果的な自治体モデルを見てモデルとできるように、自治体成果報告会を地域別（7月16日：大阪、9月4日：東京）に開催し、効果的な自治体モデルを示すとともに、各自治体での課題への取り組みや導入に向けた進め方を議論する場を設け、参加者同士の情報交換や導入上の問題解決への助言を行った。この報告会には、新規にマニュアルを導入した自治体の参加を重点的に呼びかけ、参加がしやすいように、また自治体の意思決定の鍵を握る関係者の同行しやすいように、関西と関東で1回ずつ開催する便宜をはかった。
  - ⑥ エビデンスに基づく実践をベースラインとして進めている先進地（アメリカ）から助言をもらい、先進的な知見の発信のため、外書の和訳を平成27年度に引き続き行い、翻訳段階を終了し、監訳段階に進んだ。
  - ⑦ 日本社会福祉士養成校協会のSSW養成講座に、開発したマニュアル活用のワークショップ方式の研修を平成27年度に引き続き提供した。さらに、平成28年度はスクールソーシャルワーク評価支援研究所として日本社会福祉士養成校協会の後援を得て、同協会を会場として、マニュアル活用のワークショップ方式の研修およびマニュアルを導入した自治体から導入の経緯、マニュアルの活用方法、やってみての成果などを報告する自治体成果報告会（9月4日）を開催した。
  - ⑧ 平成27年度に続き法務省の効果検証専従班から依頼を受けて、薬物依存離脱指導のための効果モデルの構築と社会実装の助言を行った。

## II 切れ目のない支援システムの構築

実装促進組織として、切れ目のない支援システム検討会を組織した。子どもの貧困、生活困窮、子ども若者の課題、児童虐待、孤立など子育て支援、健全育成的課題などの支援的視点からの検討を行った。

本実装責任者が、文部科学省中央教育審議会やその部会「学校地域協働部会」「地域と共にある学校部会」委員に選任され、また内閣府子どもの貧困検討委員会の構成員であることから、研究結果を報告し意見を言う機会を多数得た。例えば子どもの貧困に関するフォーラム等と呼ばれ、本プログラムの報告を行い、ほか文科省のチーム学校の内容を検討するガイドラインを策定する委員として本プログラムの実績を報告し、スクールソーシャルワークガイドランづくり（2017年2月）に反映された。総理官邸での教育再生実行会議においても発表を行い、学校教育法施行規則の改正（2017年4月）に貢献した。

府や市において、スクールソーシャルワークを活用した政策モデルづくりの相談を複数件受け、具体的にシステム作りに貢献した。大阪府子ども施策審議会の会長

を担い、子どもの生活実態調査の委託を受けたことから、市内会や教育委員会の研修会などで本効果的なSSW事業モデルを提示し、効果を示すことができた。提示している学校プラットフォームに関するパンチ絵を作成したが、それをもとに動きはじめている自治体が生まれている。

新聞・TVなどで実装したSSWモデル、切れ目のない子どもの支援システムが取り上げられ複数回出演し、社会的反響をもたらした。

### 3. 実装成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動等

#### 3-1. 展示会への出展等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2016年5月30日	21世紀研究機構所長会	大阪府立大学なかもずキャンパス	効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムの報告 (約50名参加)	企業、研究所所長	理系の教員、企業から質疑
2016年11月5日	サイエンスアゴラ	日本科学未来館	発達障害に対する適切な療育・支援のための開発研究として報告 (約120名参加)	保護者 教師 研究者	活発な質疑:参加者

#### 3-2. 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2016年5月22日	効果的なSSW事業プログラムのあり方研究会（コアメンバー会議）大阪開催	大阪府立大学なかもずキャンパス	内容：大阪府立大学研究者と拠点地域のファシリテータの企画会議（議題：各地の情報交換、9月4日の自治体成果報告会の企画） 参加人数：13名参加	拠点地域のSSW関連リーダー的人材、自治体の教育委員会	
2016年5月28日	効果的なSSW事業プログラムのあり方研究会（コアメンバー会議）東京開催	帝京平成大学	内容：大阪府立大学研究者と拠点地域のファシリテータの企画会議（議題：各地の情報交換、9月4日の自治体成果報告会の企画） 参加人数：5名	拠点地域のSSW関連リーダー的人材、自治体の	9月4日自治体成果報告会の実績

				教育委員会	
2016年 7月16日 午前	効果的なSSW事業 プログラムのあり 方研究会（コアメ ンバー会議）	大阪府立大学 なかもずキャン パス	内容：大阪府立大学研究者 と拠点地域のファシリテ ータの企画会議（議題：9月4 日の企画、Web契約手続きに ついて、各地の情報共有） 参加人数：13名	拠点地域 のSSW関 連リーダ ー的人 材、 自治体の 教育委員 会	7月16日 以降の 実績
2016年 7月16日 午後	効果的なSSW事業 プログラムモデル 活用の成果報告会	大阪府立大学 なかもずキャン パス	内容：プログラムを導入し た自治体の成果報告と、プ ログラムの定着のためのワ ークショップ式研修会。 参加人数：33名（大阪府立 大学研究員・客員研究員（他 大学研究員含む）、実践家 ファシリテータ、大学関係 者、教育委員会関係者、ス クールソーシャルワーカー、 スーパーバイザー）	拠点地域 のSSW関 連リーダ ー的人 材、 全国から の自治体 の教育委 員会	マスコミ関係 者取材
2016年 9月4日	効果的なSSW事業 プログラムモデル 活用の成果報告会	一般社団法人日 本社会福祉士養 成校協会	内容：日本社会福祉士養成 校協会後援。プログラムを 導入した自治体の成果報告 と、プログラムの定着のため のワークショップ式研修会。 参加人数：72人（大阪府立 大学21世紀研究所研究員、 客員研究員、実践家ファシ リテータ、大学関係者、教 育委員会関係者、スクール ソーシャルワーカー、スー パーバイザー、学生、一般）	拠点地域 のSSW関 連リーダ ー的人 材、 全国から の自治体 の教育委 員会	文部科学省国 立教育 政策研 究所総 括研究 官の参 加、社会 福祉士 養成校 協会所 属の大学関係 者の参 加
2016年 12月17日	教育委員会向け手 引き作成検討会議	大阪府立大学 なかもずキャン パス	内容：自治体向けワークシ ョップ式研修会の構造化と ファシリテーションの手引 き案の作成 参加人数：5名（大阪府立大	自治体の 教育委員 会職員 プログラ ム導入自	

			学21世紀研究所研究員、拠点地域の実践家ファシリテータ（客員研究員）	治体	
2016年 12月18日	効果的なSSW事業プログラムのあり方研究会（コアメンバー会議）	大阪府立大学 I-siteなんば 2階・S5	内容：コアメンバーによる企画会議（議題：効果評価（評価結果の共有・分析）、教育委員会向けファシリテーションの手引きの内容検討、2月11日のファシリテーションのリハーサル、来年度に向けた定例化検討、Web仕様改善、各地の情報交換） 参加人数：21名（大阪府立大学21世紀研究所研究員、客員研究員、実践家ファシリテータ）	自治体の教育委員会職員 プログラム導入自治体	マスコミ関係者取材
2017年 2月11日 午前	効果的なSSW事業プログラムのあり方研究会（コアメンバー会議）	大阪府立大学 なかもずキャンパス	内容：大阪府立大学研究者と拠点地域のファシリテータの企画会議（議題：コアメンバー会議の定例化、教育委員会用手引きを使用した報告と改善、各地の情報共有、新パンフ等への意見聴取） 参加人数：15人	地域のSSW関連リーダー的人材、自治体の教育委員会	マスコミ関係者取材
2017年 2月11日 午後	効果的なSSW事業プログラムモデル活用の成果報告会	大阪府立大学 なかもずキャンパス	内容：プログラムを導入した自治体の成果報告と、プログラムの定着のためのワークショップ式研修会 参加人数：56人（大阪府立大学21世紀研究所研究員、客員研究員、実践家ファシリテータ、大学関係者、教育委員会関係者、スクールソーシャルワーカー、スーパーバイザー、）	地域のSSW関連リーダー的人材、自治体の教育委員会	文部科学省、国立教育政策研究所総括研究官の参加

2017年3月 26日	子ども食堂を考 える一子どもの生 活と支援システ ムのあり様	大阪府立大学な かもずキャンパ ス	内容：子ども政策行政、児 童福祉行政、社会福祉協議 会、NPO、社団法人、企業か らそれぞれ施策の全体像、 子ども食堂のあり様の報 告、それを受けてフロアと の議論 参加人数：210名	行政、学 校関係 者、施設、 NPO、企 業、市民 団体	マスコ ミ取材
----------------	---	-------------------------	---	---	------------

### 3-3. 書籍、DVD

- ・『エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワークー現場で使える教育行政との協働プログラム』山野則子編著、明石書店、2015年2月
- ・『効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラム 評価ファシリテーションの手引き（SSW用）』大阪府立大学スクールソーシャルワーク評価支援研究所（山野則子）、2016年2月
- ・『すべての子どもたちを包括する支援システム』大阪府立大学スクールソーシャルワーク評価支援研究所（山野則子）編、せせらぎ出版、2016年2月
- ・『エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムの実施支援とその評価』大阪府立大学スクールソーシャルワーク評価支援研究所（山野則子）編、2016年2月
- ・『よくわかるスクールソーシャルワーク[第2版]』山野則子・野田正人・半羽利美佳編、ミネルヴァ書房、2016年10月
- ・『効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラム 評価ファシリテーションの手引き（教育委員会用）』大阪府立大学スクールソーシャルワーク評価支援研究所（山野則子）、2017年3月
- ・『エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラム（WEB版）』大阪府立大学スクールソーシャルワーク評価支援研究所（山野則子）、2017年2月

### 3-4. ウェブサイトによる情報公開

<http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/>

2016年4月改変

### 3-5. 学会以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・第85回全国民生委員・児童委員全国大会「子どもたちの未来のために期待されているもの」2016年10月21日
- ・教育再生実行本部会議「学校・家庭・地域の教育力を機能させる仕組み作り」自民党本部、2016年10月27日
- ・山野則子「発達障害に対する適切な療育・支援のための開発研究」『サイエンスアゴラ2016公開シンポジウム』日本科学未来館、2016年11月5日
- ・教育再生実行会議「学校・家庭・地域の教育力を機能させる仕組み作り～学校プラットフォームの実現に向けて～」総理官邸、2016年12月5日

- ・ 山野則子・横井葉子「『効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラム』2016年度の活動」、文部科研・EBP-TACモデル開発研究班「実践家参画型エンパワーメント評価を活用した有効なEBP技術支援センターモデル構築」第7回 企画・総括研究班事務局会議 2016年12月7日、日本社会事業大学
- ・ 山野則子・横井葉子「効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムの実施と普及—実践家参画型アプローチの現状と課題」、科学研究費補助金基盤研究（A）及び日本ソーシャルワーク学会協働研究実践家参画型形成評価研究会主催「実践家と協働で進める効果的福祉実践プログラムの形成・改善と実施・普及の方法を考えるセミナー」、2017年2月4日、日本社会事業大学
- ・ 山野則子・横井葉子「効果的なSSW事業プログラム2016年度の取り組み」、科研（基盤A）第3回企画総括研究班報告会、2017年3月22日、日本社会事業大学

### 3-6. 論文発表

(国内誌 4 件、国際誌 \_\_\_\_\_ 件)

- ・ 山野則子「家庭教育支援のためのチームづくり」児童心理2016年4月号臨時増刊No. 1021、P59-65、金子書房、招待論文
- ・ 山野則子『スクールソーシャルワークからみた「チーム学校」』教育と医学 2016年6月号、P476-484、慶應義塾大学出版会、招待論文
- ・ 山野則子『効果的なスクールソーシャルワークモデルの評価と理論構築』地域ケアリングVol. 18No. 5、2016年5月号、P63-69、北隆館
- ・ 山野則子「教育と福祉の協働—児童福祉・スクールソーシャルワークの視点から—」季刊教育法、第190号、平成28年9月25日発行、P28-36、招待論文

### 3-7. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演（国内会議 1 件、国際会議 \_\_\_\_\_ 件）

- ・ 山野則子「教育と福祉の協働」教育経営学会研究会、名古屋大学、12月10日

(2) 口頭発表（国内会議 3 件、国際会議 \_\_\_\_\_ 件）

- ・ 山野則子・西郷泰之「訪問型家庭教育支援に関する実態把握調査（その2）—ホームビジティングによる援助を中心に—」第17回子ども家庭福祉学会全国大会、2016年6月、日本社会事業大学
- ・ 山野則子『「少年事件から考える必要な仕組み～検証報告そしてイギリスの制度から～」エビデンスに基づくSSWと学校プラットフォーム』日本学校ソーシャルワーク学会 第11回全国大会、2016年8月28日、法政大学多摩キャンパス、課題別第2分科会 企画者
- ・ 山野則子「子どもの貧困に関する実態調査から見えること — その意義と今後 —」日本子ども虐待防止学会 第22回学術集会おおさか大会、2016年11月25日、大阪国際会議場

(3) ポスター発表

### 3-8. 新聞報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 ( 6 件)

- ・ 沖縄タイムス「沖縄振興審に新委員 専門家8人任命初会合」(2016. 6. 9)
- ・ 読売新聞「家庭訪問で子育て支援 悩む保護者の孤立防ぐ」(2016. 6. 10)
- ・ 日本経済新聞「子どもの貧困対策、学校に土台を」(2016. 8. 24)
- ・ 日本経済新聞「水族館や図書館夏の夜ワクワク」(2016. 8. 26)
- ・ 日本経済新聞「中教審、新たに15委員」(2017. 2. 14)
- ・ 産経新聞「正論：子供を劣悪な生育環境から救え」(2017. 3. 24)

(2) TV放映 ( 3 件)

- ・ NHK/NHKラジオ 「おはよう日本」子どもの貧困⇒家庭教育支援(2016. 4. 4)
- ・ NHK総合テレビ「ニュースほっと関西」(2016. 9. 30)
- ・ NHKスペシャル「見えない貧困」(2017. 2. 12)

(3) 雑誌掲載 ( 4 件)

- ・ 山野則子「かがり火 つながり」月刊社会教育、No. 726、2016年11月、P1、国土社
- ・ 山野則子「子どもたちの未来のために期待されているもの」『民生委員・児童委員のひろば』人権教育啓発推進教育センター、2017年2月
- ・ 山野則子「学校との連携を進めていくために」『民生委員・児童委員のひろば』人権教育啓発推進教育センター、2017年3月
- ・ 山野則子「SSWの旗手 今仕組みを作るとき」『繋ぎ人』、2016年3月、P2-5、公益社団法人大阪社会福祉士会

(4) 受賞

3-9. 知財出願

3-10. その他特記事項